



表紙の写真
「西島和紙」

全国に和紙の産地はいくつかあるが、中富町西島は書道用紙専用に生産を行っているというのが特徴だ。

機械化による大量生産が当然となった今も、西島和紙は古くからの伝統技術にこだわり、一つひとつ人の手によって心を込め作られている。そのため、和紙からは人間の手でしか出し得ない何とも言えぬ温かみが伝わってくる。また、書道用に優れたにじみ、肌合いをもつため、全国の書家を魅了し、多大な賞賛を受けている。この「西島和紙」の長い歴史と伝統を守り、いつまでも日本の心を渡き続けてほしいものである。

本号からロード、やさしい手甲府も仲間に加わりました。

「MUH」vol.28 2003.4.1
企画／早野グループ「MUH」編集室
深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢・樋口明美・赤池さおり
編集／株式会社ニュースメディア甲府
三神弘・三井君男／高山ひとみ／千野和美／相川礼子・荻野由香／宮塚利雄・杉村聡／浅川毅・標克明・永田宏
印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate（仲間）Union（結束）Harmony（調和）の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム	2
テーマ 同級会 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	
対談	
山梨21 羽中田 昌 氏 スポーツエッセイスト	4
「目標は、逃げない」 日本のサッカー、ヨーロッパのサッカー バルセロナで体験したこと	
ホスト 早野 潔	
トピックス	
東アジア地域の安定と北朝鮮情勢 宮塚利雄	10
ウォッチング	
株式会社 ヒューマック	11
サークル訪問	
すみれ会	13
セミナー	
郷土資料館「奈麻余美文庫」	14
山梨の伝統工芸	
西島和紙	15
インフォメーション	
トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・ロード・やさしい手甲府・早野組	16
歴史	
野口正章と野口小蘋 上野晴朗	18
美術	
ボクの美術品観察日記21 山本育夫	20
BOOK こんなところに山梨… BOOKコーナー 「甲州日記」	22
お茶の間の民俗学（19）	
一ふるさとの心と味（14）— 志摩阿木夫	23
名峰からの富士山	
御正体山 上野 巖	24
甲府通運前史を訪ねる（21） 林陽一郎	25
ユーザー訪問	
神沢 文雄さん	26
お家拝見	
相川 幹夫さん	27
ときのひと・FACE	
株式会社ロード 常務取締役 由井 久夫さん	28
やさしい手甲府	
介護保険情報	29
おしゃれ シューマート石和店 たべる フランス菓子の店 巴里（パリ）	30
コラム	
某月某日 杉村 聡	31
ロードのページ	
甲斐の細道 「鎌倉街道の歴史」	32

天正十八年の同級会

江宮隆之

同級会

小学校の同級会をしたいのだけど、地元にいるあなた方が骨折ってくれなければ実現しない。

そんな葉書が来た。

実はこの同級会は過去にも何度も開いてきたが、何しろ「団塊の世代」である。一クラスは五十人近い編成のうえに、七組まであった。学年全体が三百五十人もいた。そこで一組から順に当番になって二年とか四年に一度、開くことになっていたのが、どこかのクラスの時に幹事のやり手がいなくなり、自然消滅のような形になっていたのだった。

葉書の主は、すでに幹事をやった女性で、東京に暮らしている。資料は次の幹事のクラスに渡してあるのに、とやや非難がましい。

天正十八年(1590)三月、関白秀吉は百万ともいわれる兵力を動員して、関東小田原の北条攻めを開始した。

これには、北条氏と姻戚関係にあった徳川家康も参戦したし、当時の大名、小名のほとんどが攻撃方として小田原周辺に結集した。

秀吉は、天下の名城とされ、上杉謙信、武田信玄

も落とせなかった小田原城を前にして、無謀な攻撃ではなく、包囲して長期の兵糧攻め作戦に出た。秀吉の得意な城攻めである。

小田原城の見える位置に天守閣を伴った本格的な城を築いて、秀吉は包囲中に大騒ぎをした。能を舞わせるなど、連日祭りのように秀吉の陣営は賑わったという。

その様子は、あたかも秀吉政権を作るために、戦ってきた(あるいは敵対した武将同士もあったが、今は同じ秀吉陣営の仲間である)武将たちの「同級会」のような雰囲気であったに違いない。

その中で、奥州にいた伊達政宗は北条とも関係があって、早期の参陣が出来なかった。何度も非難がましい督促の書状が秀吉から届き、やっと腰を上げたのは六月になってからであった。激怒した秀吉から政宗は懲罰を受けたが、領地を取り上げられるまでに至らずにすんだ。そして北条氏は、この年の七月に滅びた。

ところで同級会を開催するよう要請してきた手紙に応えるにも、私のクラスの順番はまだ三回分はある。四年に一度なら幹事は十二年以上先のことである。さて、何とって言い訳の葉書を書こうか。悩んでいる。

古屋久昭

還暦同級会

このところ俄に同級会というものが動きだしてきた。高校時代の同級会、中学時代の同級会、生まれ育った部落での同級会と、たて続けに計画がもちあがっている。

なぜか。同級生たちがことし一斉に還暦を迎えることとなったからである。いずれの同級生も、さすがに還暦を無視するほどの勇気もなければ呑気さもない。それが同級会となって現れているのだ。

むろん還暦の実感はない。職場では現役でもあるし、定年までにはまだ1年近くはある。

おそらく定年になっても60歳という年相応の気持ちにはなれないだろう、いまからそんな気がしている。このことは特別私に限ったことではなく、みんながそうなのだ。

そうこうしているうちに、やがて誰もが等しく年をとっていき、気づいてみれば70歳であったり80歳であったりして、ここまでくれば否応なく老いばれた自分にハッと気づいて愕然とするのであろう。同級生というものは、この過程を共有する仲間というわけなのだ。

同級生をもう少し細分化してみると、クラスという、より親密な単位になる。クラス替えも時々あるからクラス仲間はそのつど替わったりする。

そんな中でも、中学3年の時のクラスだけは今でも会として存在し、毎年のようにクラス会が開かれる。地元に住っているという理由で、たいてい私が幹事をやらさせられる羽目となる。

やる以上はと、単に飲み会とお喋りだけの会ではなく、なつかしい中学校や当時遊んだ場所などを訪れたり、ここ数年は、近くの山へのハイキングと温泉、施設の整った公園での散策などを組み合わせての一泊のクラス会を計画し、これが特に東京方面のクラス仲間たちからは好評である。

同級生の中にはすでに他界している者も何人かいる。それぞれの寿命を全うしているといえは聞こえはいいが、天はこれだけ是不公平だ。

しかし、100年単位でみれば公平であり、あの世においては同級生が再び全員そろって再会を喜ぶこととなる。還暦はその前の中間同級会のようなものかもしれない。

同級会は嫌いなんだ

岩崎正吾

同級会というのが苦手である。だから、なるべく口実をつけて行かないようにしている。

同級会では、どうしても昔の話が出る。

ここに、こうして集まった理由、つまり学校時代のことが話題になる。あの頃こうだった、ああだった…。話しているときは楽しくとも、やがて深く悲しくなる。「おもしろうて、やがて悲しき同級会」という思いにとられる。

だって、そうではないか。いくら同級会が楽しくたって、あのころに帰れるわけがないではないか。わが頭髮の豊富にありしときのことを話しても、抜けてしまったものは戻りはしない。かつて輝くような美しさで、胸をときめかせた女性の賞味期限の切れた姿を見るのもつらい。

努力してもどうにもならない時間というものの残酷さに、わたしはいつも深く傷ついてしまうのだ。だから、「やがて悲しき」同級会には出たくないのだ。

そして、わたしはずっと不思議に思ってきた。世の中には、異常といえるほど同級会の好きな人がいる。頼まれもしないのに同級生の消息を尋ね歩き、パソ

コンできれいな名簿など作って配りまわる。どこに住んで、どんな仕事をしているか。旧姓は何とって、今の姓は何であるか。あの男は姓が変わったところをみると婿養子に行ったのか、あの女性は姓が変わらないから結婚しないのかなんて、たちどころにわかる名簿を見るとよけいなお世話なんじゃないかと思ってしまう。むろん、同級生名簿を作る人の善意は、まったく疑わないが…。

そんな好人物たちは同級会の悲しさなんて感じないのか。時間が取り戻せないことを絶望しないのか。そもそも同級会なんて何の役に立つのかと思っていれば、今回の知事選では同級会名簿を頼りにしたような郵便物がたくさん来た。

なるほど、同級生名簿にはこうした使い道もあるのかと少し納得したが、しかし、選挙のたびに来るわけではない。一高だの韭高だの騒いだ今回の選挙は例外だったろうから、やはり同級会の魅力や役割はわからない。

わたしにとって「同級会好き」は、解けそうにない謎といっている。

新山梨村盛衰記

佐藤真佐美

北海道殖民公報43(明治41.7)によれば、明治40年の洪水で被害をうけたもののうち、北海道に移住を希望するもの約700戸3,500人あまりを受け入れるため、胆振国倶知安村に1,100万坪を用意した。42年8月ふたたび大洪水が襲い、翌年250余戸2千人、合計3千人を超える人々が羊蹄山の麓に居を構え山梨、新山梨、甲斐の3集落を営む。その経費として国庫より8万円、県より7万円を補助、生活費全額負担の、屯田兵並の厚遇だった。

山梨県が北海道庁へ移住地を照会したところ、初め数ヶ所が示されたが、県民を離れ離れにさせたくない、その後の県の指導がやりやすいようにと、一括管理できる地を希望して、倶知安村に決まった。その理由の一つに、羊蹄山の存在が欠かせない。別名蝦夷富士とも呼ばれるこの山は、甲斐の国のシンボル富士山と寸分違わぬ容姿で、事前に現地を視察した県職員が「ああ、これならば遠く故郷を離れても淋しくなからう」と嘆息したという。

02年7月、洞爺湖温泉で高校時代の同級会開催の案内がきた。ニセコ町在住の友人が発起人である。

洞爺もニセコも倶知安の隣町だ。『倶知安町誌』があれば山梨県移住者の消息がわかるにちがいないと見当をつけ、事前にそのコピーを依頼した。はたして町誌には18頁にわたって、新山梨村盛衰記が載っていた。隣の京極町にも「甲斐」の地名が残り、町誌に山梨県移住者の名簿まで載っていた。官費で一切が補助という厚遇にもかかわらず、いまはいずれの地域も無人の広野である。地名が残るのみ。

新山梨、山梨、甲斐の字地名を友人の案内で巡った。「山梨」は牧草地となった丘陵地帯で、富士そっくりな山が眼前にそびえていた。集落の入り口に、大正6年4月18日の日付がある蚕影山(蚕の神)馬頭観世音の碑がたっていた。明治41年4月18日に、入植者第一陣が到着した。それを記念して建立したものだという。先祖が勝沼町出身の三代目という方に会えた。「祖父は、富士だけが唯一のなぐさめだったと、そればかり言っていました」と語る。ところで、京極町誌にある初代移住者の名簿に、なぜかわが祖父の名が見当たらない。そのいきさつなどについては、いずれ何等かの形で報告したい。

江宮隆之■
1948年山梨県生まれ
作家、第十三回歴史文学賞、第八回中村星湖文学賞受賞。著書に『白磁の人』『政治的良心に従います』『骨董の底に掘られて』『一葉の雲』『蔵三奔る』『井上井月伝説』など多数。最新刊に『真田幸村』(学研M文庫)

古屋久昭■
1943年御坂町生まれ
日本現代詩人会会員、日本現代詩歌文学館評議員、詩集に『落日探集』ほか、童謡集に『虫しく花しく』エッセー集等

岩崎正吾■
1944年甲府市生まれ
作家、山梨ふるさと文庫代表、現在、1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようという運動中、また、インターネット上で作家、出版活動しようという模索中、今春、新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され、同時に『探偵の秋』が文庫化される

佐藤真佐美■
1939年北海道生まれ
日本児童文学者協会、日本児童文学協会会員、著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバー』(草炎社)『山梨の童話』(リブア出版)など



早野 潔

羽中田 昌氏

日本のサッカー、ヨーロッパのサッカー バルセロナで体験したこと

「目標は、逃げない」

ゲスト

は ちゅうだ まさし
羽中田 昌氏
スポーツエッセイスト

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

風土から生まれる戦術 イングランドの肉弾戦

早野 サッカーブームですね。サッカー少年も増えています。テレビでの中継も盛んになって、日本の試合はもとより、世界の試合を楽しむことができるようになりました。

羽中田 昨年のワールドカップが、あんなにも人気になるとは想像していませんでした。

サポーターの「ガンバレ日本」の声援と、チームカラーの青一色に染まった競技場が、今でも強く印象に残っています。

早野 家庭でも、職場でも、また、電車のなかでも、サッカーの話題でもちきりでしたね。

はじめてサッカーに興味を寄せた人たちもいます。一生懸命ルールを覚えたり、選手の名前を覚えたりしました。サッカーによる国際交流も成果でしたね。

羽中田 サッカーを愛し、サッカーとともに生きてきたひとりとして、とても感激でした。せっかく関心をもっていただいたのですから、ブームで終らせたくはないですね。

日本のサッカー界は、さらにサッカーの面白さと、奥深さを表現していかなければならないでしょうね。

そうした役割を、わたしも果たしたいですね。

早野 サッカーの面白さ、奥深さは、どんなところにあるのでしょうか。

羽中田 まず、11人で戦いますから、組織力のありようが見どころです。組織というのは何かといいますと、一人ひとりの個性が活かされながら、かつ、ひとつに高められてい

くということです。そのために必要なことは、規則であり、コンビネーションです。

早野 家庭でも、職場でも、望まれることですね。

羽中田 ヨーロッパのサッカーが確立されているのは、100年という歴史があるからです。サッカーの面白さを監督や選手が観客に伝え、また、観客がさらなる面白さを監督や選手に要求していくという過程があったからです。

早野 なるほど。芝居も、音楽も、昔から、観客が育てるものだ、という言われ方がされてきました。相通ずるものがありますね。いい観客がいると、舞台がよくなります。

羽中田 また、国によって、地域によって、その表現、面白さなるものはいろいろです。

早野 日本とヨーロッパのサッカーは、どんな違いがありますか。

羽中田 伝統のあるヨーロッパのほうがレベルが上ですし、強く、学ぶところも多いですね。

早野 組織力、コンビネーションの素晴らしさですか。

羽中田 サッカー先進国といわれている国は、それぞれ個性があります。たとえばイングランドは、激しいサッカーです。素早くボールを蹴り込んで、肉弾戦ともいうべき戦いをゴール前で展開します。

早野 観客はもう、座ってなんかいられませんか、興奮します。

羽中田 どうしてこのようなサッカーになったかといいますと、土地柄によります。イングランドは寒さが厳しく、雨も降ります。おのずと、綿密にボールをつないでゴールまで運ぶ

というのではなく、豪快なサッカーになります。

早野 雨でぬかるんで、短いパスはつなげにくいのですね。

羽中田 風土や地域特性によって、スタイルがさまざまです。

早野 日本には、日本のサッカーがあっというわけですね。北海道には北海道の、沖縄には沖縄のサッカーがあったら面白いですね。

羽中田 地域に根づいたサッカーといえるでしょうし、歴史ともいえるでしょう。サッカーの奥深さですね。

町で評判のサッカー少年 荏崎高で全国大会準優勝

早野 サッカーとの出会いは、小学生の頃だとうかがっています。甲府の春日少年団チームで、県下でも強豪でしたね。

羽中田 七つ年上の兄がサッカーをやっていたので、その姿に憧れて入団しました。練習日は毎週月、水、金曜日の二時間で、日曜日には試合がありました。一生懸命にボールを追いかけて、ゴールを決めるのがうれしかったですね。

早野 運動神経はよかったのでしょうか。周囲も注目したのではないのでしょうか。

羽中田 早くから高学年のチームに出場させてもらいました。しかし、サッカーに目覚めたのは小学校4年のとき、西ドイツで行なわれたワールドカップをテレビで観てからです。

オランダ代表のキャプテンだったヨハン・クライフのプレーに感動して、気がついたらテレビの前で泣いていました。ああ、いつの日か、ヨハン・クライフのような選手になり、ワ



ールドカップに出場するんだ、という夢がめばえました。

早野 早熟でしたね。天分というものでしょう。ヨハン・クライフ選手のどんなところに魅了されましたか。

羽中田 ドリブルをする姿が優雅で、華麗で、まるで蝶が舞っているようでした。

早野 少年団の練習から帰ってからも、家の前のブロック塀を相手に、ひとりキックをするようになりました。

早野 ご近所で評判の「サッカー少年」になっていったわけですね。

羽中田 母からは「少しは勉強しなさい」と呆れられました。西中学へ進学してからも、サッカーに明け暮れていました。

早野 高校はサッカーの名門、韭崎高校でした。全国大会で準優勝2回の成果をおさめましたね。羽中田選手の名前も全国に知られるところとなりました。どんなふうに思い出されますか。

羽中田 苦しい練習に耐え、仲間とともに日本一を目指せたことは、かけがえのないことです。車のタイヤをゴムで身体に巻き付けて走ったことや、真夏に100本ダッシュをしたことなどがよみがえります。楽しい思い出は、苦しい体験のなかにこそあるのですね。

早野 誰からも羨望され、愛され、前途有能でした。

羽中田 事故に遭ったのは、大学受験を目指していた浪人中の夏のことでした。50ccのバイクを運転中、前輪がパンクして転倒し、車椅子の生活を余儀なくされました。もうサッカーができない、何もない、と絶望しました。

■ Jリーガーには負けられぬ人生の転機を支えた言葉

早野 もう一度、サッカーとともに生きたいと決意されたのは、いつのこと、どのようなことからだったのか

しょう。

羽中田 事故をして10年目のことでした。

早野 すでに初恋の女性と結婚され、県庁にお務めでしたね。

羽中田 1993年5月のことです。

Jリーグが開幕し、国立競技場でのヴェルディ対マリノスの開幕戦をテレビで観戦していました。日本もついにここまでできたか、という感慨がありました。かつて一緒にプレーした選手もいました。ここから声援しました。

ところがです。その夏、はじめてJリーグの試合をスタジアムで観戦した時のことです。熱気と興奮のなかでプレーする選手達を目のあたりにして、応援する気持ちが、悔しさに変わり、身体のなかに眠っていた情熱があふれてきました。

Jリーガーたちに負けてはいられない、サッカーに全てを賭けたい、と震えてきました。

早野 このとき、監督になって子供たちにサッカーの素晴らしさを伝えたい、と目標をもたれたのですね。

羽中田 一度は失いかけた人生ですから、大胆になれたのでしょうか。

早野 奥様は、何とおっしゃいましたか。

羽中田 「県庁職員よりも、きっとサッカーのほうが似合っているよ」と言ってくれました。

この言葉を聞いてから1年後、9年間お世話になった県庁を退職し、サッカーの本場、スペインのバルセロナへと留学しました。

■ 監督を目指し5年の留学 憧れのバルセロナの日々

早野 バルセロナには、少年時代から憧れていたヨハン・クライフが監督を務めるチームがあるのですね。奥様とご一緒に新しい生活でしたね。

羽中田 バルセロナには10万人を収容するキャンプモンスタージアムがあります。サッカーの町の象徴です。

誰もがサッカーを愛し、たとえば食事をしながらの会話でも、選手や技術に精通していて、洗練されています。

地元のFCバルセロナの試合がある日、チームがゴールをあげると、スタジアムから大きな歓声が上がります。あるとき友人から、街角の窓ガラスが音を立てるほどだと聞かされました。まさかと思っていたのですが、本当でした。地震でもなく不思議でした。やがて、スタジアムの歓声が膨張し、反響しているのだとわかりました。

早野 世界中からサッカーを学びに

集まってくるのでしょうか。

羽中田 たとえば、世界から集められた名高いサッカー少年の合宿所があります。少年たちは練習場に通うとき、キャンプモンスタージアムを見上げていくのが日課です。高層ビルのようなスタジアムです。この高さの向こうに、世界の一流があります。見上げることで、目標の高さを思い、謙虚になり、励むのですね。

早野 監督を目指して、バルセロナではどんなことを学ばれましたか。

羽中田 まず、スペインサッカー協会のコーチングスクールで学ぶことにしました。

しかし、入学案内書には実技試験があると記載されています。もとより、実技は不可能ですが何事も挑戦です。「車椅子の監督がいてもいいではないか」と訴えるつもりでした。

早野 難関ですね。

羽中田 スクールを訪ね、自己紹介をし、車椅子でも入学できますか、と問いかけました。この学校は、誰にでも門戸を開いているのですね。聴講生として、分け隔てなく学ぶことが許されました。

早野 さすが、サッカー先進国の制度ですね。

羽中田 あまりのあっけなさに、喜びがこみあげてくると同時に、ただ感心してしまいました。

バルセロナは福祉が行き届いている町でしたね。障害者やお年寄りが散歩をしたり、公園で会話を楽しんでいるのによく出会いました。

子供の頃から特別な場所ではなく、日常のなかで、お年寄りや障害者と交流する機会があります。

早野 障害児の普通学級への入学も例外ではないようですね。

羽中田 障害を、特徴のひとつとし



て提えているのですね。背が高いとか、顔がまるいとかといったようです。ただ困っていたら手を差し伸べる、といった気楽な関係があります。「福祉は子供たちの目からはじまる」というのが、わたしの持論になりました。

人には人の、自分には自分のマイペースで、わが道を行く

早野 コーチングスクールはいかがでしたか。

羽中田 毎週、月、水、金に通学します。約30分の電車通学です。授業では、心理学、運動生理学、教授法の三教科が重点科目です。

心理学では、グループにおける個人の精神状態、つまり、集団のなかに入ること、選手にどのような精神的効果が生じるか、などを学びます。

早野 監督になるためには必要な要素ですね。これが理解できないと、チームを円滑に運営できません。言葉の壁はどうでした。

羽中田 スペイン語のスクールにも通いました。困難はいろいろありましたが、「人には、その人その人のペースというものがある」ということを自分への励ましにしました。

早野 パルセロナには、3年の予定が、とうとう5年の滞在となりましたね。

羽中田 学ぶことがたくさんありました。それに、時間がゆったりと流れる町でした。時間がゆったり流れると、人はやさしくなります。

早野 日本にも、パルセロナのようなコーチングスクールがあるといいですね。

羽中田 これからの日本のサッカー

の発展には、指導者の育成が課題です。これがサッカーの町、バルセロナで得た実感です。

たとえば、ひとつの技術を教えるときには、模範を示すとともに、その動作を具体的に言葉で説明することが大切なのですね。

「こうやって蹴るんだ」とパフォーマンスをするだけではなく、言葉で理解させなくてはならないでしょうね。

早野 日本には以心伝心というのがありますが、なんとなく、いつかわかる、というのでは説得力がありませんね。

羽中田 教え、伝えるテクニックを知らないから、つい、精神論に逃避してしまいがちです。

コーチングスクールでは、たとえば「サッカーのインステップキックの正しい蹴り方を説明しなさい。ただ

し実際に身体を使って示すのではなく、軸足の位置、重心の置き方、また、正確に蹴った場合、ボールはどのように飛ぶのかを言葉で説明しなさい」というような質問をされます。

早野 すこぶる論理的ですね。

羽中田 インステップキックというのは、ほとんど回転しないので、風などの影響に左右されやすく、したがって、思いがけない変化をしてキーパーを惑わすことになるのですね。このキックの蹴り方を、言葉で説明しなければなりません。

早野 的確な技術指導を受けたなら、サッカー少年たちは幸せですし、技術が向上していくでしょうね。

羽中田 車椅子の監督として、いつの日か、少年たちにサッカーを教えたいですね。

早野 目標に向かって、これからも試練の日々ですね。

羽中田 ある日、妻が、「挫折したって、あきらめなきゃあ目標は逃げるよ」と言う言葉を贈ってくれました。

早野 サッカーボールは、単にボールであることを超えて、生きる理想であり、夢なのですね。

〔構成：三神 弘〕

DATA

はちゅうだ まさし
羽中田 昌
スポーツエッセイスト
1964年（昭和39年）7月19日
山梨県甲府市生まれ

**OPEN
THE NEXT
DOOR!**

兄の影響で、小学校3年生の時にサッカーを始める。1974年、西ドイツワールドカップでのヨハン・クライフを見て、サッカーに対する情熱が深まる。小学校5年、6年時には全国大会で優秀選手に選ばれる。中学時代はナショナルトレセンにも参加。1980年、サッカーの名門葦崎高校に進学し、2年連続全国大会準優勝。葦崎高校の黄金期のエースとして、その名を轟かせる。1983年高校卒業後、交通事故に遭い、脊髄を損傷、下半身不随の生活を余儀なくされる。1986年、山梨県庁に入庁。1995年、9年間勤めた県庁をやめ、サッカーの指導者になるべく、スペイン・バルセロナに渡る。スペインサッカー協会公認「カタルーニャ・サッカー・コーチング・スクール」に通う傍ら地元サッカークラブ「オスピタレット」のユースチームに付き、指導の実践を学ぶ。バルセロナ滞りの5年間で2冊の本を出版。サッカー記事を中心に執筆活動を盛んに行う。2000年10月帰国。留学生活の最後に50日に及ぶ旅を敢行。妻と車でヨーロッパを回り各国の歴史、文化、特にサッカーの違いを実感する。現在は、BS朝日「soccer2002」のメインキャスターを経て、講演活動や執筆活動など多方面で活躍中。サッカー史上初の車いす監督を目指す。

- 主な活動
Sky Perfect TV! :
セリエA解説 他出演
エールディビジ ハイライト出演
「for football」出演
J SKY SPORTS :
リーガ・エスパニョーラ 解説出演
WOWOW :
UEFAチャンピオンズリーグ 解説出演
- 連載
「空飛ぶ車椅子」/毎日新聞（山梨版）
「クロバタエスタディオ」
/講談社「ヤングマガジン」



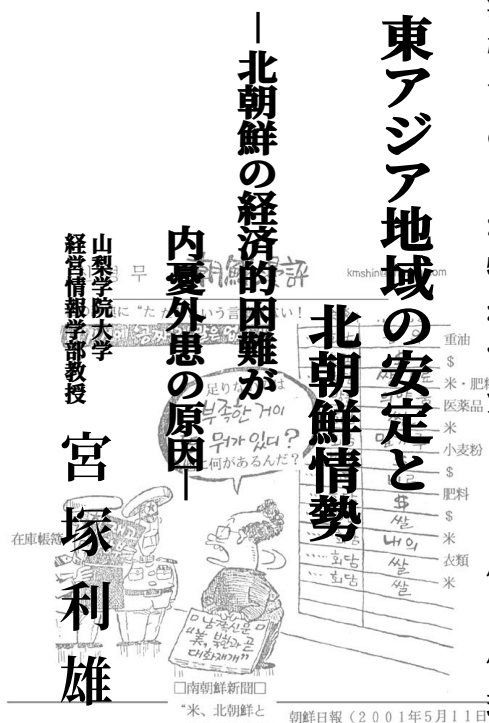
左から羽中田昌氏、兄・仁さん、妻のまゆみさん。兄の経営する「パレット」の前で



- 著 書
「みんなの声がきこえる」（四谷ラウンド）
「グラスシアス～サッカーからの贈り物」（四谷ラウンド）
絵本「そこからはじまる」（学習研究社）

“ならず者”とは「暮らしが思うようにならない者。悪い事ばかりして手の付けられない者(『広辞苑』)」のことを言う。われわれの身の回りにも、残念ながら庶民の日常生活を脅かすこれらの輩は少なからず存在する。世界の国家警察を自認するアメリカのブッシュ大統領から、この「ならず者」呼ばわりされた「悪の枢軸」国家がイラン、イラク、そして北朝鮮である。「ならず者」呼ばわりされた当の国家の指導者にしてみれば、とんでもない言いがかりであると反発しているが、全く根拠のない指摘でもない。ブッシュ大統領によれば北朝鮮は「人民を飢えさせていながら、ミサイルや核開発に奔走し、人民の人権を蹂躪している国家」であるという。

たしかに北朝鮮は最近でも2月と3月に計2度、短射程の地对艦ミサイル発射実験を日本海側で実施し、周辺国家の中国、韓国、日本を不安に陥れた。北朝鮮は93年にノドンを、98年にはテポドンを発射し、さらには開発済みと言われている長距離弾道ミサイルテポドン2は、遠くアメリカ西海岸地域まで到達する能力を持っていると言われている。北朝鮮は弾道ミサイルの発射実験は03年まで凍結すると宣言し、昨年9月には日朝首脳会談で署名した日朝平壤宣言で、凍結延長を約束したが、最近の北朝鮮の核開発疑惑で米朝関係が悪化しており、場合によっては北朝鮮が凍結の約束を反故にして、新たなミサイル実験を行う事態も予測されている。北朝鮮のミサイル発射による脅威は東アジア地域ばかりでなく、アメリカにも及ぼうと



している。今やアメリカと北朝鮮は、北朝鮮はアメリカへのミサイル発射、アメリカは北朝鮮への攻撃という、まかり間違えば周辺国家をも巻き込んだ大惨事も予測される事態にまでなっている。なぜ、北朝鮮はミサイル発射や核開発、それに生物・化学兵器という凶器を振りかざして、周辺の国家に迷惑をかけようとしているのだろうか。

北朝鮮が世界を敵にまわして瀬戸際外交を展開している背景には、困窮する経済問題が大きく作用している。北朝鮮は昨年7月1日に「経済管理改善措置」を断行した。これは公定物価を高値の農民市場やヤミ市場の価格に近づけ、物資を国家管理の正規ルートに引き戻そうというのが狙いであった。さらには北朝鮮ウォンの大幅な切り下げも行った。要するに、物価の安定と所得の倍増によって人民生活の向上を図ろうとしたものであったが、十分な物資の

流通に裏付けられた物価と賃金の引き上げではなく、供給増の伴わない、貨幣の流通が不十分な状態での改革であった。確かに平壤をはじめとする一部の大都市では、中国から生活必需品を緊急に輸入して、物流をなんとか間に合わせたが、これも一時的な措置で大部分の地域では、給与は上がったが肝心の物資が不足したために、悪性のインフレが横行するようになった。

20倍以上引き上げられた賃金すらも、すでに一部では減額や支払い停止が起きている。8チョン(1ウォン=100チョン)から44ウォンと550倍にも引き上げられた米の値段は、現在では130ウォン～150ウォンへと跳ね上がった。北朝鮮ウォンの対外レートも公式の1ドル=150ウォンから、実勢は1ドル=約700ウォン前後が相場である。北朝鮮勤労者の1ヶ月の平均生活費(月給)が約2500ウォンと言われている。日本円に換算すると約400円くらいになる。北朝鮮はエネルギーと食糧不足が慢性化しており、今や外国からの支援なしにしては生産の向上と、人民生活の向上は不可能な状態にある。アメリカからの重油の供給と、日本や韓国からの食糧支援を切望している北朝鮮が、その目的を実現するための手段として、ミサイル発射や核開発といった“凶器”を今後とも外交カードとして持ち出してくる可能性は大いにあり得るが、なんともおぞましいことである。国家の安全と安泰を維持することは容易なことではない。同じことは我々無辜*の庶民にとっても同じことで、“ならず者”のいない社会生活を望む次第である。

大きなガラス張りの窓。鉄骨構造の近代的な建物を自社ビルに持つ株式会社ヒューマック。洗練されたフォルムの建物の中では、山梨の経済状況に密接に関係した業務が営まれている。

“人材派遣”の四文字に託された経済効果

人材派遣業を核とした業務を中心に、山梨の経済効果を支えている株式会社ヒューマックでは、設立当初から教育部門として、ビジネススクールを開校している。

企業で大切な礼儀作法から、業務のノウハウまで幅広いニーズに応えることができる人材の育成にも力を注いでいる。県内はもちろん、日本経済の状況は厳しさを増し、雇用状況もより効率的に“アウトソーシング”が求められている。ヒューマックでは、独自のシステムとノウハウの構



株式会社ヒューマック

築によって、より高い品質システムと環境マネジメントシステムの維持のため、国際規格の認証ISO9001、ISO14001も取得した。

平成3年に労働省の認可を受けてスタートした、OAを中心とした一般事務の人材派遣業務は、現在総合的な人材サービスにまで成長し、再就職支援業務、厚生労働省の最新データの求人求職情報が検索できるサイト利用者の数も増加している。

「ビジネススクールでは、常にプロフェッショナルを企業に送りこめるように、個々にあったプログラムを



● 株式会社 ヒューマック ●

平成元年8月に創立。平成2年2月に設立。平成3年に労働省の認可を受けて、一般事務、オフィスワーク人材派遣業としてスタート。平成5年には、追加申請をし、派遣業務の業種を拡大。厚生労働省OA技能検定認可校、厚生労働省事務専門士認定校、日本商工会議所ワープロ検定校として確かな実績を残している。スタッフは15人。関連会社に株式会社ヒューマックエフエー。

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田2丁目3-3
☎055-227-6181(代) FAX055-228-3831
URL http://www.humac.to



作成しています」と語ってくれたプロダクトマネージャーの佐野さん。「でも、現在では、今の能力の中で働ける場を探す人も多いです」と続ける。また、「再就職の状況では、40歳代の方も見えます。ここではいかに幅広く企業の要望に応えることができるか、日々積極的に取り組んでいます」。

求められる“人材” 多様な雇用ニーズ

山梨県内の取引企業は100社を超える。取引企業の多さからも、確かな実績と信用がうかがえる。

一定の雇用期間を過ぎ、企業の要望があれば正社員となる『紹介予定派遣』、新卒者の適性探しや能力獲得のための『新卒派遣』、雇用の形をより柔軟に企業の負担を軽減した人材派遣業の推進にも積極的だ。

これからの経済を支える雇用の新しい提案と形がここにある。

常に前向きなヒューマックの企業姿勢は、時代とともに、これからも進歩し成長を続けて行くことを確信した。

Spring has come!

全国どこへでも

お届けには安心^{ハナ}を添えて



事業内要

- 一般貸切輸送（一般、常用、専属）
- 重量品輸送（取り付け、取り外し搬出入作業）
- 入出荷請負（荷造り、梱包作業、出向代行業務）
- 引越輸送（事務所・工場の移転、ご家族のお引越等）
- JRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便
- 宅配便
- 航空便取り扱い
- 産業廃棄物収集運搬
- 生命保険の募集及び損害保険代理業

----- 流通の基本を大切にその先へGO -----

④甲府通運株式会社

本 社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3329-1
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332
田富営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3211-14
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめばえる文化探訪

朝市を開催する元気な女性グループ

朝採りの新鮮野菜を 廉価で提供 多くの笑顔に出会える 手作り朝市

すみれ会

土曜日の午前8時半。玉穂町下三条の空き地に主婦をはじめ家族連れやお年寄りなど、多くの人が集まってくる。ハウレンソウやキャベツ、ニンジン、ネギなど朝採りの新鮮野菜をはじめ、イチゴなどの果物、卵やパン、花などが所狭しと並び、朝市が始まる。

運営しているのは地元の農家の主婦らでつくる「すみれ会」。「せっかく作ったのに余って捨ててしまう農作物がもったいない」と、地元の農協の女性部役員OBが集まり五年前から活動を開始した。

現在のメンバーは50代から70代までの13人。それぞれが自分の畑でその日の朝に収穫した旬の野菜や果物を持ち寄り販売しているだけに、商品はどれも新鮮そのもの。冬

は根菜類が中心で、どうしても種類は少なくなるというが、春から夏にかけては八百屋顔負けの豊富な種類が並ぶ。おいしさにも自信を持っており、代表の塚原サツキさんも「どこの畑で作られたのかわかっている野菜ばかりなので、安心して食べてもらえますよ」と太鼓判を押す。

価格は100円が基本で、中には市価の半値以下のものも。量も市場の店頭と並ぶものの1.5倍はあろうかというほどで、とても商売上手とは思えないが、塚原さんは「作った野菜を無駄にしないことが基本。みなさんの喜ぶ顔をみられるのがうれしいですよ」と笑顔を見せる。

雨の日も雪の日も必ず開催していて、休むのは年明けの2週のみ。地元の玉穂町はもちろん、三珠町や甲



府市などからも毎週楽しみに訪れる常連のお客さんも多く、毎週同じ顔に会えることも楽しみの1つになっているよう。どんなに冷え込んだ朝でも、必ず顔を見せてくれるという。

「私たちにとって、多くの笑顔に出会えるこの活動は生きがい。これからはずっと続けていくことが目標です」と話す塚原さん。消費者にとってもこの朝市は新鮮でおいしい野菜に出会える貴重な場であり、地域の交流の場としてもぜひ続けていってもらいたいものだ。



朝早くから新鮮な野菜を求める人々に賑わう

◆すみれ会◆

中巨摩東部農協玉穂支所の女性部の役員OBが中心となり結成。13人のメンバーの半数が専業農家、半数は兼業農家を営んでいる。毎週土曜日の午前8時半から、玉穂町下三条の空き地を借りて朝市を開催していて、地元のパン屋さんや鶏卵農場も参加している。
問い合わせ 事務局 中巨摩東部農協玉穂支所 山村さん
連絡先 〒400-0123 玉穂町成島2410-2 ☎055(273)2002



郷土資料館「奈麻余美文庫」が開館二十周年を迎えた。文庫名の「なまよみ」は、万葉集にみられる甲斐の枕詞。武田氏ゆかりの地、甲府市古府中町の三方を山に囲まれた地に、コロニアル葺の建物が印象深い。館長は、植松光宏氏。

私設の文庫は、かつて山梨にも三館あったが、戦争で焼失したり、図書館に吸収されるなどして、現在は「奈麻余美文庫」だけとなった。先人の業績を讃え、新しい文庫の在り方を示して、評価は高い。館長は定期的な古書店めぐりはもとより、各家庭の埃を被った古書のなかに貴重なものはないかと、奔走してきた。

蔵書、およそ一万五千冊。郷土資料というと、とかく歴史関係の本を連想するが、ここには自然科学、技術、産業、芸術、文学と幅広く収蔵され、かつ、六フロアに日本十進分類法による大別がなされ、求める資料をすみやかに手にすることができる。特筆すべきは、書店の流通をとおらない本の豊富さだ。諸雑誌、個人出版、限定出版、あるいは市町村の刊行物が目を引く。

郷土研究家として著名である館長は、郷土研究のための労苦を長年にわたって経験している。このことが、これから学ぶ人たちへの環境づくりとして反映されている。文庫には、学生が論文作成の資料探しに來たり、小中学生が宿題調べに來たり、また、わが家のルーツ探しに訪れたり、活用のされかたもいろいろだ。

なんといっても、館長自身が求め、読み、そして精通している本ばかりである。身近で、親しい助言は、ことに有り難い。これこそ「奈麻余美

郷土資料館「奈麻余美文庫」が開館二十周年 古書を活用した講座も人気

文庫」の独自性といえる。

館長は、公民館の講座や、地域学習の講師としても人気だ。ここでも文庫の古書をテキストに、郷土の歴史・文化の楽しさに誘う。ある日の講座のテキストは、太宰治の「富岳百景」、大村主計の「婆やのお里」、国民学校教科書の「国語・音楽・図工」の五冊だった。

はじめは「富岳百景」を読み、太宰治と石原美智子のお見合いのいきさつが披露された。この日はちょうどお見合いの行なわれた日とあって、受講者は大喜びだった。

「婆やのお里」では、童謡「はなかげ」の主人公の大村はるえと、作者・大村主計の兄弟愛が胸にせまった。

さて、国民学校一年生の国語教科書は「アカイ アカイ アサヒ」で始まるが、これは全員で朗読した。音楽では大村主計の「はなかげ」や「ふるさと」を合唱した。図工は、趣向に富んでいて、懐かしい小刀の「肥後守」と石板、石筆が用意された。往時の小学性になって、体験をしてみようというのである。古書との出会いは、「肥後守」を使って鉛筆を削るという楽しさへと展開していった。

古書が、今日の光を得て、表情豊かに、生命をよみがえらせる。郷土資料館「奈麻余美文庫」は、二十一世紀への貴重な贈りものである。

〔編集部〕



西島和紙の発祥は、戦国時代、望月清兵衛が伊豆修善寺で修行を積み、「修善寺紙」の製法を学んで、ふるさと西島にその製法を持ち帰ったのが始まりとされています。

この彼が持ち帰った紙は、三極を主原料としているため、平滑で光沢があり、毛筆に適したものでした。これを国主、武田信玄に献上したところ信玄公は大変喜び、上納用の紙である「運上紙」として認め、西島の「西」と未年の「未」に因んだ「西未」の朱印をつくり、武田割菱の紋を刻んで彼に賜りました。その結果、彼は西島およびその周辺で紙を漉くことを許され、紙役人に命じられたのです。

こうして彼により教え広められた西島和紙は、武田家滅亡後も徳川

「西島和紙」の あゆみ



幕府の保護を受け、江戸時代、西島を中心に峡南地域においてますます盛んに生産されるようになりました。近代になると、洋紙におされ衰退しましたが、第二次大戦後には、原料を新しく故紙（三極等を原料と

した使用済み製品）や稲ワラ等に変え、書道用紙の生産を主とするようになりました。それから現在に至るまで、十数軒の和紙工房によって、「書道半紙」や「画仙紙」（大判の書道用紙）の生産が続けられています。

このように、西島和紙は先人の知恵と努力によって支えられてきました。そして、四百有余年の長い伝統と様々な改善を経て、「墨色」「にじみ工合」「筆ざわり」等に傑出した紙として、今や全国の書道家や書道愛好家に珍重、愛用されるところとなっています。

西島和紙工業協同組合
〒409-3301
山梨県南巨摩郡中富町西島391-1
☎ 0556 (42) 2519

「西島和紙」の製造工程



原料の選別



叩解（たたく）・漂白

- 1. 原料（故紙）の選別**
原料の中から不要なものを取り除き、煮沸後、一晩ねかせて熟成させます。
- 2. 叩解・漂白**
ビーター機で洗浄し、繊維を打解、漂白します。
- 3. 抄紙・圧縮**
添着剤を加え、一定の厚さに紙を漉き、圧縮機にかけ脱水します。
- 4. 乾燥**
外でよく干した後、水に浸し、1枚ずつはがして乾燥機で乾かします。
- 5. 裁断・製品**
和紙を良い悪いに分け裁断し、製品に仕上げます。



漉し



乾燥

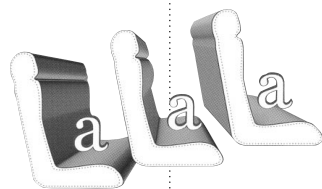
INFORMATION

楽しさ広がる大きな室内空間
さらに充実の3列シートシリーズ

洗練されたデザインと上質な乗り心地、そして機能性を備えたコンパクトミニバン「ウィッシュ」デビュー!「アルファードV」「イプサム」の3列シートシリーズに、新たに「ウィッシュ」が仲間入り。さらに充実のラインナップです。



WISH



ALPHARD



IPSUM

ぜひお近くのビスタ店にお越しください。

トヨタビスタ山梨 (株)
本社：甲府市朝気3丁目10 - 21 TEL055 - 232 - 5511

2003年のトヨタホームは
安心＆安全な家ウルトラ7宣言

1. じょうぶな家

地震などの災害時に、拠点となる消防署や避難所となる公民館と同レベルの設計強度を持つ、トヨタホームの鉄骨ラーメンユニット工法。
阪神・淡路大地震クラスの直下型地震でも本来の性能がほとんど劣化しない強さです。

2. 防犯の家

ピッキング対策として、鍵穴が見えずにハンズフリーで自動的に施錠・開錠できる「スマートキー」。
窓の施錠忘れ対策として、すべての窓の施錠状態がひと目で分かる警報センサー付きの「窓施錠モニター」。
この2つを兼ね備えれば、心強い防犯対策になります。

3. 楽々メンテナンスの家

基礎構造体に業界屈指の「30年住まいの安心特約」と保証の短い住宅設備に業界最長の「設備機器5年保証」という確かな保証に加え、住まいのトラブルに対応する「24時間フリーダイヤル」の住まい相談も実施しています。

4. 健康な家

トヨタ独自の光清浄換気扇「エアナビ II」は、2つの高性能フィルターで空気中の汚れを除去・吸着分解。また、フィルターを通して清浄された空気を室内に供給。これを核とした全館健康換気システム「ビュー24」で、常に家中の空気をクリーンに保ちます。

5. しずかな家

自動車制振技術を応用したダイナミックダンパー採用の「高性能遮音床TAF」により階上から階下へ響く歩行音や落下音を大幅に軽減します。

6. おトクな家

トヨタホームローン「新安心宣言」は、初回金利はもちろん2回目以降もお得な基準金利なので、総支払利息も自ずとお得。
保証料や団体信用生命保険、様々な手数料がすべて無料になり、借りるときも借りてからも末永く安心です。

7. たのしむ家

最初から最後まで、家族と一緒に楽しみながら新しい家を造りあげていくハウジングコンセプト「トヨタホームとオンリーワンプロジェクト」。そこには「世界でたった一つの家をつくらう」という、様々なスタッフの心を込めたメッセージが息づいています。



トヨタホーム山梨 (株)
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055 - 275 - 1234 FAX055 - 275 - 7806

環境に配慮したディーゼル車

● 東京都環境条例とは

石原都知事の「ディーゼルNO作戦」のもと昨年可決、2003年10月1日施行。都知事指定のDPF(排ガスフィルタ)を取りつけないと、生産後7年以上のディーゼル貨物車は都内を走行できないという条例です。(県外ナンバーも含む)。乗用車は対象外です。

今後、埼玉、神奈川、千葉なども同調の見込みで、NOx(窒素酸化物の総称)には言及しておらず、PM(黒煙などの粒子状物質)のみの規制となります。

● NOx法(改正前)

1992年に自動車NOx法が、主に古い貨物車(生産後8～9年)の強制廃車を目的に大都市圏で施行されました。「NOx低減装置をつければ乗り続けられる」ことで決着しましたが、大型車には甘いなど効果があまり上がらなかったため、新たに名古屋を追加し、乗用車を含めた小型ディーゼル車も対象に、NOxに加えPMも規制する「改正NOx法」が制定され、強化されました。

東京都環境条例(都内運行禁止)			
●対象：都内を通行するD・トラック・バス	●不適合車		
●基準：一段前のPM排出ガス基準	一猶予期間 7年経過後は都内運行禁止		
一開始：03年(H15)10月～	●罰則：氏名公表、50万円以下の罰金		
PM:0.25g/kWh KK-KK-適合	一対応(選択)		
一強化：05年(H17)4月以降	●排ガス規制適合車への買い替え		
PM:0.18g/kWh 新短期 適	●東京都指定の「PM減少装置」の装着		

項 目	旧NOx法	改正NOx法	備 考
特定地域	東京 埼玉 神奈川 千葉 大阪 兵庫 196市町	左記+愛知、三重 76市町村	
内 容	NOx	NOx,PM	
車 種	D,G,LPGト・バ	D,G,LPGト・バ、D乗用車	
適 合	U-W-相当(5t超)・(U-副室式：～5t)	KK-,KL-相当	
不適合	～K-P-	U-W-KC-	GVW3.5t超の場合
猶予期間	小型8年普通9年 小バス・特種10年 大型バス	同佐+D乗用車9年 濃変緩和措置あり	
処 置	継続車検不可→代替	継続車検不可→代替	

甲府通運(株)
本社：中巨摩郡田富町流通団地3329 - 1 TEL055 - 273 - 0611

INFORMATION

(株)ロード

創 立 昭和48年3月22日
資本金 1500万円
年 商 6億7千万円(平成14年実績)

- ◆道路工事及び付帯工事一式
- ◆建設資材、材料の販売
- ◆公園施設工事及び付帯工事一式
- ◆造園工事一式

『標識、区画線施工及び販売業務を通し社会に貢献すると共に、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、継続的に改善することにより、以下の顧客要求事項を達成し維持する』

1. 円滑な交通を提供し、確保し、交通事故・労働災害のゼロを達成する。
2. ムリ・ムダ・ムラをなくし、常に安全で精度の高い製品をより安く提供する。
3. 工期を厳守し、感謝の心で引き渡す

2001年10月 ISO9002認証取得 **QJA-QM7195**

※2003年8月に品質マネジメントシステムISO9001：2000への移行予定2000年版は従来の1994年版を改訂し、2000年12月15日に国際標準化機構が発行したもので、2003年12月14日までに2000年版に移行しなければならない。当社では、品質マニュアル・規定類を改訂し本年3月から新システムを運用、8月に移行審査予定です。

(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代)
FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

『介護タクシー発車!!』

介護タクシーとは道路運送法並びに介護保険法の指定を受けた指定介護サービス事業者が行なう通院介助サービスです。ケアプランに基づき、運転手を含むヘルパーが病院まで同行する介護保険対象のサービスです。当社では4台の自社タクシー車両を保有し、郡内地域を中心に運行しております。見た目は一般車両と変わりませんが、車内にはおなじみのタクシーメーターが取り付けられ、2種免許を持ったプロのドライバーが運転しております(もちろん緑ナンバーです)。また、甲府市内では合同タクシー様(小澤社長)と提携し、営業をしております。



介護タクシー

＜介護タクシーの利用方法＞

- ① 要介護認定を受ける。(要支援の方は利用できません)
- ② ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼する。
(サービス事業者への連絡調整はケアマネージャーが行ないます。)
- ③ ケアマネージャーの依頼を受けた指定介護事業者と契約し、サービスが始まります。
- ④ 通常のタクシーとしてのご利用も可能ですのでご相談ください。
(介護保険適用外のサービスになります。)

＜お問い合わせ先＞

料金、その他ご不明な点は、やさしい手甲府本社までお気軽にお電話下さい。
甲府市朝日5-4-16 (株)やさしい手甲府 本社総合サービス部
TEL055(255)6334 担当：横森

甲府エリア……………(株)合同タクシー(指定訪問介護事業所)
TEL055(255)5111 担当：福井
富士吉田エリア……………(株)やさしい手甲府 富士吉田事業所
TEL0555(30)4441 担当：土屋

(株)やさしい手甲府
本社：甲府市朝日5-4-16 TEL055 - 255 - 6334

県建築文化奨励賞に2件入賞

山梨県で選出する平成14年度建築文化賞の建築文化奨励賞に当社施工物件が2件選ばれました。建築文化賞は平成2年から実施され、今年で13回目、県内で13年7月以降に完成した建築物のうち景観上や機能性に優れたものが表彰されます。14年度は142件の応募があり、建築家や有識者でつくる審査委員会(清家清委員長)が1次審査で10件に絞った後、現地審査を経て選ばれます。選ばれたのは右記2件です。



東山聖苑

【建築文化奨励賞(公共建築部門)】

件 名：東山聖苑
発注者：東山梨行政事務組合
場 所：山梨市小原西
施 工：早野組・藤原建設JV

【建築文化奨励賞(良好なまちなみ景観を形成している建築物)】

件 名：宮前保育園
発注者：(福)宮前福祉会
場 所：甲府市岩窪町
施 工：早野組

※当社ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。
(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055 - 235 - 1111
http://www.hayano.co.jp

幕末・明治に西洋狂いといわれた夫と あくまで日本の美を描き続けた夫人

野口正章と 野口小蘋

(のぐちまさあきらとのぐちしょうひん)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室
を経て67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数

明治草創期、生粋の甲州人ではないけれども、甲府を母体に生き、共に日本的に名声をあげた珍しい夫婦がいる。野口正章と野口小蘋の二人である。

正章は父の代に滋賀県蒲生郡から甲府に出てきて、清酒醸造業を営んだ家柄の人。また夫人小蘋は大阪生まれの人で、父春岱は漢方医、小蘋は本名を松村親子といった。

二人が結ばれたのは明治10年(1877)、正章は滋賀の本家を離れて甲府で活躍しており、明治4～5年頃、横浜に行って外国人に接してパースビールの味を覚え、日本でも同じようなものがつくれないものかと、奔走しはじめたのが、西洋狂いといわれるようになった元だという。

そして明治5年(1872)、横浜在住のビール製造に詳しいコブラントを甲府に招いて、研究に着手した。そして翌6年には試醸に成功した。そこで明治7年(1874)、政府の許可

を取って本格的な製造に着手した。製品は甲斐ビールとして知られている。さらに三ッ鱗ビールと名前を改めて売り出している。そして明治8年(1875)京都府博覧会に出品して



山梨ビール醸造元の宣伝チラシ

銅賞牌を受け、評判を取った。こうして明治10年(1877)、松村親子と結婚することになったのである。

正章は嘉永2年(1849)生まれであるから29才、親子の方は弘化4年(1847)生まれであるから31才、二人とも晩婚である。それというのも、正章の方は西洋狂い、西洋かぶれ

と俗称されたように、ただひたむきに日本人に合ったビールが造れないかと奔走していた人物。かたや親子の方はすでに小蘋と名乗って画家として活躍期に入っていたから、絵を描かせてくれるという条件つきで、骨董商の紹介のもとに野口正章と結ばれたのであった。小蘋は17才のとき、母の故郷京都で日根対山入門、小蘋と写したのだという。小蘋とはうきくさのこと、父を文久3年(1863)に失い、明治3年(1870)母をも失った小蘋はまさに天涯孤独の身であったから、結婚しても絵を描かせてほしいという願いは強い願望といってよく、正章は快くそれを許して結婚が成ったのである。

正章の家が生まれた滋賀県というのは、江戸時代、大阪や江戸などに進出して、当時の商業活動の中核的役割を果たしてきた人物が多く、近江商人の名で知られていた。甲府も江戸圏に含まれ、近江で酒問屋



のぐちまさあきら 野口正章と甲斐ビールの商標



三ッ鱗ビールの商標



野口小蘋の絵

を営む野口家は、全国に酒造の店舗を拡大し、11の店を構えたため十一屋と呼称された。甲府柳町の十一屋の屋号の清酒醸造業の店がそれである。

明治5年(1872)頃、大阪で澁谷庄三郎という人物が、澁谷ビールというのを醸造して販売を始めているが、正章のビール製造はそれに次ぐものということになる。ただ当時日本ではビールはまだあまり受け入れられなかった時代、澁谷ビールは売れ行きがさっぱりで低迷しきっていた。正章のビールの方も売れ行きが伸びず、困った正章は致し方なく、ビールの商標登録を甲斐ビールから三ッ鱗ビールに改めて、大日本帝国麦酒醸造所の三ッ鱗麦酒として販売を切りかえたけれども、やはり売り上げは低く成功せず、ついに多くの借金を残して事業は閉ざされることになった。

要するに横浜貿易が始まったころから、明治初期へかけて横浜に行った日本人は、外国人の生活に驚嘆し、とくに食生活に興味をもつ者が多かったが、樋口一葉の父、八左衛門はたびたび横浜に出向いているが、その思い出の中に「毛唐が赤い血のような酒を飲んでいたので自分も飲んでみたが、始めは気味が悪かったが、慣れてみると飲めるものだ」と述懐しているところがある。横浜在住の甲州商人、篠原忠右エ門の家の二階は、商人宿となっていて、宿泊客が多く、夜ともなると外国人の飲むワイン、ブランデー、ビールなどの舶来品の試し酒をする溜まり場ともなり、自分達も試し酒に酔うことは酔ったが、自分達の国でも造ってみ

ようと勇んだのはワインだけ、ビールに挑戦した正章は発想は斬新ではあったが、まだ受け入れられない時代だった。

一方、正章と結ばれた小蘋は、そんな正章の家業、人を大勢使う商家に嫁いできたが、絵を描くことを諦めずコツコツと努力し、藤村県令が名付けて奨励した愛宕焼の絵付けまでしている。愛宕焼の古い絵皿などに昔はよく小蘋の染付けなど見かけたものである。



小蘋の婦人画



小蘋の絵

こうして数年が経過し、二人の間には娘の郁子が生まれている。しかし、正章の事業があまりうまく進展せず、挫折の様相を呈してしまったので、正章はビールを造る事業を諦め、昔からの日本酒造り一本に絞って、この事業を弟にゆずって、自分達は親子三人で上京することになった。明治15年(1882)のことである。もちろん、家業を完全に捨てたというのではなく、弟を見守って度々故郷甲府に帰り事業を手伝っている。また、小蘋の方は今度は本格的

に南画を描くようになって、パリの万国博覧会、日本美術協会の展覧会などに度々出品するようになって、名声を得るようになった。まだ女流画家が少ない時代だっただけに、その評価は高く、明治20年代に入ると、華族女学校の教授に推薦され、また明治天皇の皇女の常宮昌子内親王や周宮房子内親王の御用掛もつとめるようになって、生活も安定した。

小蘋の南画は、山水、花鳥を得意とし、心を打ちこんで制作する日々には、夫の正章と娘の郁子のほかは、制作する自室には誰も入れなかったという。正章とは大変仲がよく、甲府に度々帰ったばかりでなく、尾張や三河地方にも二人でよく出掛けていたという。

つまり、明治初期の女流画家、野口小蘋は、夫正章と結ばれなかったらこれほど大成しなかったらと思うられる。要するに、藤村県令の殖産興業政策にそい、西洋狂いとまで言われながら、その担い手として華々しく登場した野口正章は、事業は失敗してしまっただが、三ッ鱗ビールの名前を後世に残し、また、妻小蘋の絵の最もよき理解者だったのである。その夫、正章の心温まる擁護のもとに、小蘋は絵に精進し、明治37年(1904)、女性としてはじめて帝室技芸員を拝命、さらに明治40年(1907)には官展の文部省美術展覧会(文展)の審査員を女性ではじめて務めるなど、華々しい活躍期に入っていた。これすべてその陰に夫正章の励ましがあったからであり、二人の仲睦まじい相思相愛の心が、それを育んだものであることを忘れてはならない。

漂う視線
臨場感溢れるフィクション

悲しい人生

レンブラントといえば、「夜警」の画家。オランダ美術の黄金時代最大の人物といわれる巨匠だ。しかしこの天才画家も、その人生はけっこう大変だったようだ。子ども3人は赤ん坊のうちに死んでしまうし、妻にも先立たれている。50歳には破産状態に陥り、投獄寸前のところを愛人と息子に助けられるが、その二人にもまたしても先立たれてしまう。

そんなレンブラントの「テュルプ博士の解剖学講義」という作品が、今回のテーマ。ハーグのマウリッツハイス美術館の所蔵作品。1632年の作品だ。

臨場感のある雰囲気

このころのオランダでは、解剖学講義の様子を絵にすることがはやったようで、最初期は記念写真のように登場人物が勢ぞろいしたいかにも固い雰囲気の絵だったようだ。それに比べてレンブラントの絵は、解剖講義の雰囲気を臨場感のある構図で伝えていて、ドラマチックでさえある。

この絵はアムステルダム外科医組合の発注により描かれたもので、登場人物たちは組合の面々であるという。メンバーも特定できるそう。特に、解剖講義をしている黒い帽子の人物はコラス・テュルプ博士だそうで、1629年から53年まで、アムステルダム外科医組合の主任解剖学者兼講師を務めたことが知られている。

ボクのアート品観察日記

レンブラント・ファン・レイン (一六〇六～一六六九)
「テュルプ博士の解剖学講義」

一六三三年 マウリッツハイス美術館所蔵 (オランダ)

山本育夫

21

ミュージウム・マガジン・ドーム(DOME)編集長/アートマガジン・エル・アール(EL)編集長/まち「見物」誌ランデブー編集長
中央公論 美術手帖 週刊朝日などに執筆。大学や美術館などでの講演も多数。美術品観察学会のメーリングリスト主宰。参加希望者はyamaku@mxh.museu.ne.jpまで、参加費無料。

視線の不思議

もっとも実際の講義は、もっとたくさんのメンバーの中で行われたはずだそうだから、このシーンも、レンブラントのフィクションであり、むしろ組合員のための、やはり記念写真だったのだろう。しかし同じ記念写真でもこれだけ臨場感があると、組合員の評判も高くなろうというものだ。解剖されている人物は、処刑された犯罪者に限っていたそうで、その死に顔が不気味である。

博士は右手のはさみで死体の腕の筋肉と腱をもちあげ、「指が曲がるのはこれらの働きによるのですぞ」などと解説しているわけだ。

精神構造の深さ

それにしても、皮のはがれた腕の描写の生々しさといったらない。

気になるのは登場人物たちの視線である。博士はどこか彼方を見ているし、背後の面々は画家の方を見ているのは、どう考えても2人だけ。あとの連中ときたら、何を考えているのやらだ。特に、背後に立っている人物、「あんたはまじめに講義を聞いているんかい!」と怒鳴りたくなる。

それにしても達者な筆さばきだ。レンブラントさんの、精神構造の深さによる飽くことのない人物描写、精神描写は、生半可なアーティストにはまねができない。絵を描くということは精神を刻み込むということだと、ある人がいていた。深く深く刻まれた精神の果ては見えない。その深みまで降りていった人へのみ、こうした描写が許されるのだろう。



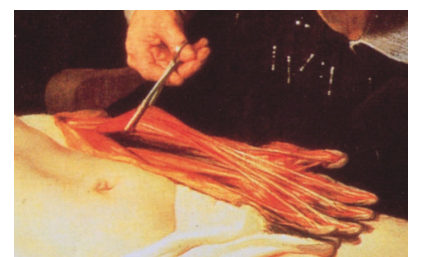
「テュルプ博士の解剖学講義」



視線1～6



博士



腕の筋肉

この四月一日、八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の合併で「南アルプス市」が誕生した。新しい市の名前は合併六町村はもとより全国に公募され、応募数四、五〇〇、名称一、一〇〇種のなかから選考された。片仮名を使用した市は全国初で、宣伝効果も期待できそうだ。町村合併は、二十一世紀のまちづくりを展望させるとともに、一方で、これまで関心の薄かった地域の歴史や、地名に愛着をもたらずという、これまでない現象をおこした。合併を機に、多くの町村がふるさとの歴史をどうめる書誌を発行した。

白根町の「百々(どうどう)」は、御勅使(みだい)川の「どうどう」という川音に由来する。この御勅使川は、その昔は扇状地を流れるうちに水がしみ込み絶えてしまうことから「水絶え川」と呼ばれていたともいう。「在家塚(さいけつか)」は金山城という横穴式古墳にちなんでいる。

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

地名には読みにくいが、往時の暮らしを知る手がかりであり、興味が尽きない。八田村の「六科(むじな)」は、この地が六つの地域によって成り立っていたことを示し、「野牛島(やこしま)」は湿地帯で、トンボの幼虫のヤゴの生息地だったことがわかる。「島」は縄張りのことだ。

芦安村の「芦倉(あしくら)」の芦は、野生のアシで、北岳の神を迎えるのにアシで被った飯小屋を設けたことによる。「安通(あんつう)」は、山への道をさす。若草町の「十日市場(とおかいちば)」は、お馴染みの「馬の角以外は何でも売っている」市が毎月十日に開かれたところだ。

櫛形町の「曲輪田(くるわだ)」の「くる」は境界の意味で「わだ」とは入り組んだ場所をいう。「今井(いまい)」は、井戸の湧水で開拓した土地の名残で、甲西町の「湯沢(ゆざわ)」は、湯が湧き出たのではなく、柚子の柚で、ユズの産地であったことを伝える。「大井(おおい)」は平安時代の大井荘の歴史をとどめ、「南湖(なんい)」は、甲府盆地の幻の湖の南端という意味である。

地名は、最も身近な歴史への手がかりであり、いにしへの旅への道案内をしてくれる。

参考資料

テレビ山梨刊「ふるさと地名考」

(寿)

新聞記者のコラム

「甲州日記」

越川健一郎 著



毎日新聞の支局長だった著者が、県版に「甲州日記」として発表したコラム八〇本を収める。県内各地を訪ね、土地に生きる人たちの風貌、息遣い、心のひだにせまる。

塩山市を訪ねての「放光寺の鐘の音」では、戦時中に供出され、三〇年以上も鐘のなかった寺に、篤志家夫婦が軍人恩給をこつこつため、友の霊を慰めたいと寄進したことで、再び鐘の音が響き渡るまでの由来が紹介される。

鐘を打つのはお経を読むのと同じように修行だと、電気仕掛けの鐘も多くなつたなかで鐘の尊さを説く住職の話にも、耳を澄ます。さらに、鐘の響きを聞く農家の人たちの、腕時計をしているのに今日は三分早かった、今日は五分早かった、寺に告げにくる親しい姿も、時計より鐘の音とともにこのころの時間を過ごしている様子も、いきいきと描く。

駅長も、村長も、レストランのオーナーも、染物屋の親方も、登場する。いずれも、日頃は聞けない話題や、特ダネが提供されている。出合いの喜びが忘れ難い一日となって、報告されていく。

山梨ふるさと文庫 ¥1,500+税

(川)

旧暦三月三日、現在ではヒナの節句とか桃の節句といつて、女の子の成長を願う行事となっているが、江戸時代の中頃までは「上巳(じょうし)の節句」と呼んで、旧暦三月の最初の巳の日に行われた祭事で、この時期農仕事の開始期に当たり、農の神様(とりわけ稲の神様)を迎えて、この年の豊作を祈った。尊い神様を迎えるために人びとは身心を浄める必要があるもので、形代(かたしろ)という呪物で身も心も浄めて、その形代を川へ流す「形代流し」という呪術をした。その形代が後にヒナとなって家に飾られヒナ祭となった。

この行事の日には、人びとは家の中にははいけない。野山へ出て神様を迎えることになっていたので、誰も彼も神様とともに野外で飲食をするようになるので、それぞれの家では精一杯の料理を作って、これを重箱に詰めて家族総出で野山へ出かけた。これを「山あそび」と名づけた。春の若草が芽生えはじめ

ふるさとの心と味(14)

—上巳節句の山あそび—

民俗学研究者

志摩 阿木夫
しま あきお

た好季節、あたたかな日射しを浴びながら、神様とともにいただく(神人共食)食べ物。中心は「太巻き寿司」で、これは前の晩から祖母や主婦が心込めて材料を仕込み、三日の朝、この年の豊作や家内

現在の日は「子どもの日」となっているが、上巳にしろ端午にしろ、子どもの健康やかな成長を願う親の心は、いつの時代でも変わることはない。

因みに上巳の節句が旧暦三月三日となったのは、徳川五代將軍綱吉の時代からで、五月五日の端午の節句もはじめは旧暦五月の最初の午の日(端午)であったものが綱吉の時代に五月五日と決められたのである。

の安全を祈りながらせつせと巻き上げた晴れの料理(行事食)であるから美味であることは間違いない。
麦の若葉が揺れ、遠山から里へ下ってきた鶯が鳴き渡り、家族の笑顔がみなぎる季節、みんなこの年の豊作を信じて、太巻き寿司を頬張る。日本の古い歴史が育んできた季節の味は、食べる楽しみだけでなく先人の残し伝えてくれた心に触れることも加えて一層尊く楽しめてくれる。

名峰からの富士山 vol.3

みしょうたいやま
御正体山 (1682m) (都留市、道志村)
写真と文 上野 巖



歴史を偲ばせる御聖人跡



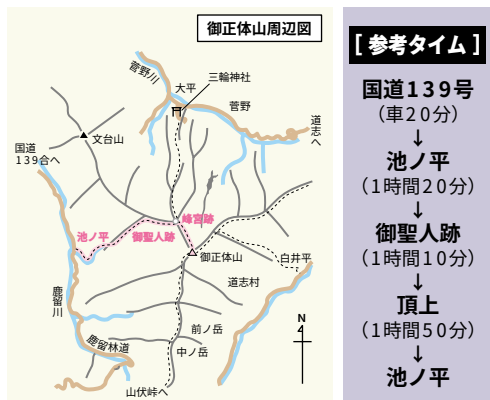
山頂付近に咲くミツバツツジ



御正体山尾根すじから見る残雪の富士山

「正体」とは「神体」と同義語で、山そのものを昔の人が神としてあがめたための山名だという。県内全域では決して高い山ではないが、道志、秋山系では群を抜く高峰であり、南北が六キロにも及ぶ大きな山体をしている。里人の信仰の証は山中の随所に見られるが、周辺から眺めても、確かに神を感じる雰囲気を持つ山である。

登山コースは東西南北から五コースもあるが、最もハイカーの多いのは、都留市から道志村に入る県道沿いの大平地区を起点とする北面コースだ。ただしこのコースは、三時間半ぐらいかかるし、山頂からの尾根に取り付くまで、富士は見えない。最も奨めたいコースは、西面の都留市桂町から入る鹿留林道途中の池ノ平からのものである。かつて信仰登山盛んな頃、大いに賑わったであろうと思われる痕跡の中でも、最も見応えのある御聖人跡を通過するからだ。江戸時代の一八一五(文化十二)年、山中で即身仏となった岐阜出身の妙心上人が、修業のため庵を結んで籠もった富士の見える場所がそこで



ある。あんな山中によくここだけ平地がと、不思議に思える広さだ。コース途中には、かつて三十三体もあったという観音像が、ほんの二、三体だけ残っている。尾根に出ると、北コースと一緒に手前で、富士が全景を見せてくれる。そこから山頂までの尾根では、富士はブナなどの樹間から隙間見えるだけだ。広い山頂に抜け出ても、残念ながら樹林に囲まれていて展望はない。県内でも数少ない一等三角点標石の傍らに、御正体大権現の小さな祠が立ち、山梨百名山の標柱が見えるだけである。帰路は尾根どうしに南下し、山中湖村との境の山伏峠に下山も考えられる。

甲府通運前史を訪ねる(21)

〈甲府通運のページ〉

新会社の運営方針について、(前号に引き続き)早野欽介の考えはさらに続く。

前

号に続いて早野の新会社創業の意気込みを掲載する。

⑤ 会社の特徴

通運事業免許申請書にも記載してある通り、甲府小運送自動車株式会社は現在日本通運株式会社甲府支店の集配下請作業を営業の根幹として、これに附随して地場輸送を行っている事がその最も大なる特徴であります。この特徴は即ちこの度の申請に多大な関連がある訳であります。なお長年月に亘る鉄道作業貨物積みおろしの経験をするものでありまして、この点他の申請人に比して大いに誇り得るものと自負いたしております。

〔乙〕昭和二十五年六月二十八日提出の通運事業免許申請書に関する口述書に添付の協力荷主各位

甲府市橘町 豊産興業甲府支店 支店長中村泰、紅梅町 東洋木材工業(株)専務中山政、水

事業は信念を持って決断することが肝要

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編集文化財担当

門町 三陽商事(株)、伊勢町 武田食糧(株)、八日町 山梨県水産物荷受商業協同組合、柳町 山梨県海産物荷受連合会、東八代郡石和町市部 石和町果実出荷組合長小松安則、西山梨郡甲運村 葡萄出荷組合佐藤亀造、甲府市酒折町 酒折葡萄出荷組合小野一雄、甲府市錦町 甲府中央青果市場社長遠藤仁市、春日町 株式会社山梨セメント商会、水門町 甲場塩業(株)、緑町 平原伝八商店、富士見町 甲府油槽所、上連雀町 日置勝久商店、泉町 株式会社山口定助商店社長山口定助、紅梅町 甲州煉瓦株式会社などの協力を得ました。

⑦ 本免許申請口述書提出

この権利獲得に対しては本当に懸命な努力をいたしました運輸省への往来は勿論のこと、中央にて有力なる友人知人の協力を得て遂に成功いたしました。あの時通運事業の権利を山梨貨物にとられておりましたら早野家の事業としての甲府通運株式会社は今日ありません。一つの事業を子孫に残し伝えることは誠

に努力の結晶でありどんなに家繁栄への思いが込められているか計り知れません。これは一朝一夕にできるものではなく本当に尊いものだと思えます。先代金蔵が中央線鉄道敷設工事に対する功績により各駅発着貨物積降業の権利を獲得し、戦時中は政府の命により通運事業は日本通運一店との指令に協力、一時早野家の事業としては中断のやむなきに至ったが先代の遺業を何としてでも復活したいとの激しい信念のもとに、昭和二十五年より再び認可を得、現在の甲府通運となりました。代々事業を受け継いだ者は昔の事情を知る事により大切に守って来た家の事業であることをよく認識し何事かあるごとに如何に対処すべきであるかを深く考慮し益々繁栄あるよう努力して下さい。甲府通運は社長以下社員の努力と又荷主の信用御協力を得まして着実に発展を遂げております。現在社長早野欽介、専務白木尚一、常務早野潔、所長瀬田昭であり、昭和五十二年十一月三日には甲府通運二十七周年を迎えます。

ビスタ車を使い継いで20年以上
営業マンとのつながりも車選びの大切な要素



甲府市飯田の富士見通りから東に入った住宅街に立派な本堂を構える飯田山宝樹寺。500年以上の歴史を持ち、飯田という地名もその山号から名づけられたという由緒ある寺だ。

18代目住職の神沢文雄さんは、袈裟姿でアリストに乗り込み、各地を忙しく駆け回っている。このアリストは2年前に購入したウォールナットパッケージで、本皮シートやハンドルなどの内装に木を取り入れた自慢の愛車だ。

神沢さんとトヨタビスタとの付き合いは長く、20年以上になるという。「運転する人に楽しみを与えてくれる車で、スムーズな加速や安定した走りも魅力」というアリストは現在で3台目。アリストの前はクレスタを3台乗り継ぎ、さらにその前はカムリと、免許取得以来購入した新車はすべてビスタ車だ。2台目のアリストはまだ手放さず息子さんが乗っており、車庫には新旧2台のアリストが顔をそろえている。

20年という長いビスタ車歴だけに、「ほかの会社の車に目移りしたことはないんですか？」と投げかけたところ、「まったくありません」ときっぱり。「ビスタの営業マンはどんな小さなトラブルでもすぐに駆けつけてくれて、ユーザーの気持ちになって対応してくれる。そんな営業さんとのつながりも車を選ぶ時の重要な要素になっているんですよ」と教えてくれた。

寺は本来、人が集まる場所という意味があるそうで、「どんな場面でも人と人とのつながりを大切にしている」と神沢さん。車選びにもそんな思いが反映されているようだ。

最近では葬儀や法事も斎場で行われることが多くなっており、便利に手軽になっている反面、人とのつながりは薄れてきている。人の輪を大切にしている宝樹寺では葬儀や法事はもちろん、毎年多くの檀家さんが集まって懇親会なども開かれており、今の世の中で失われつつある大切なものが今もしっかりと育まれている。

最近では葬儀や法事も斎場で行われることが多くなっており、便利に手軽になっている反面、人とのつながりは薄れてきている。人の輪を大切にしている宝樹寺では葬儀や法事はもちろん、毎年多くの檀家さんが集まって懇親会なども開かれており、今の世の中で失われつつある大切なものが今もしっかりと育まれている。



◆ Data ◆

飯田山宝樹寺
甲府市飯田4-3-15
TEL.055-222-9044

朝の光が差し込む明るいリビング
営業との二人三脚で理想の家を実現



「家族がそろって朝食を食べるリビングに、朝のすがすがしい陽の光がたくさん差し込む家を造りたかったんです」。

今回訪問した相川幹夫さん宅は、南東に面した明るいリビングが目を引く「シンセ・ノイエ」。日射しの低いこの季節はリビングからキッチンまで朝日が入り込み、気持ちのいい朝を迎えている。



150坪という贅沢な敷地に建つこの家は、1階はリビングのほか、和室やお母様の部屋など、2階は子供部屋などがある7LDKで48坪。間取りをはじめすべて担当となった営業の赤池さんと相談を重ね、納得のできる

く、幅広く活用できる造りだ。お母様の部屋はリビングと同じ南東向きで、抜群の日当たり。機密性も高く、2階の子供部屋では暖房を使わずに過ごしているという。

家づくりを実現。「たくさんの家を手掛けてきている赤池さんの提案のおかげで、住みやすい家になった」という。

キッチンー洗面所ー風呂場の一列の導線は、朝の忙しい時にも炊事や洗濯などの家事が効率よくできるとあって、奥様もお気に入り。リビングとの2間続きにした和室は、客室としてだけでなく

2階にはご主人専用の書斎も設けてあり、インターネットを楽しんだり、本を読みふけったりと、至福のひとときを過ごせる空間になっているよう。「念願の専用の書斎で過ごす時間は楽しいですよ」と満足顔だ。庭づくりはこれから。「庭によっても家の雰囲気は変わりますからね。楽しみです」とご主人。きっと頭の中にはお気に入りのマイホームに合わせた庭のプランが、いくつも浮かんでいることだろう。



■ 安全面への配慮

少し緊張した面持ちで語りだしてくれたのは、由井久夫常務。(株)ロードに入社して2ヶ月あまり。それまでは大手電機メーカーの大阪に34年勤務された。うち4年は新潟県で設備開発に努められ、後半の10年はインドネシアや中国等でプラント開発に従事されていた。現地からも来訪して、技術交流を深めたりと、様々な経験を経て現在に至るといふ。

(株)ロードでの主な業務内容は交通安全施設の設計施工(区画線、道路標示・標識等の設置)、公園環境施設の設計施工(遊戯施設、園路・広場施設)、またサインシステム(地域の案内標示)等、私たちが安全で快適に暮らせる環境づくりを行っている。

業務上、大きな車や機具を取り扱うため、社員一丸となり安全面には十分な配慮をおこなっており、皆がより快適につかえるよう、品質向上を日々目指している。

「絶対にケガをさせてはいけない、しっかりと体制を整えた上で、注意を払いながら仕事をし、皆様が一層使いやすく、住みやすい街づくりになればと思っております」と由井常務。今、なに気なく走っている道路の標識・標示の取り付け、安全な交通や施設への配慮を(株)ロードが担ってくれていたことを深く感じることができる。

■ 積極的な業務展開

現在は県・市町村から依頼を受けて設計施工を行うことが主だが、由井常務は「これからは提案営業を積極的に行っていきたい。視野を

広げ、情報を素早くキャッチし、積極的な営業を行うことで、一層安全で快適な暮らしが提案できます」と強く語ってくれた。

天候に影響を受ける作業なので、期日までに間に合わせるなど苦勞することもしばしばだという。

ISO9002を生かしたプロセス管理を行いながら実績ある仕事を行っている。先進技術を用いた作業・設備は勿論であるが、例えば県内の道路は舗装の具合やカーブの状況で、作業が細やかになるため区画線は人手を要する作業になるが、時代のニーズに対応しながら、これからも走りつづけたいと語ってくれた。

『人がいて、街があり、車が走る。年々変わる生活スタイルに合わせた快適な環境づくり』を私達のために目指してくれている人達がいることを忘れてはならない。

安全を第一に 皆様が快適に暮らせる 施設・設備の提案



株式会社ロード 常務取締役

由井 久夫さん(甲府市)

介護保険情報

平成15年4月から、介護報酬が改訂になりました。

HAND TO HEART・INFORMATION 2003/04

介護保険制度が施行されて3年が経過しました。本制度の基本的な考え方は、医療と介護の連携により、高齢者が住み慣れた自宅で自立した生活を送れることを目的としています。山梨県内では地域格差はあるものの、おおむね浸透され各事業者の取組みも徐々に評価されてまいりました。

平成15年4月より介護報酬の見直しが行われました。ご利用者にとって気になる利用料は、全体では引き下げられる方向となり、また介護タクシーや、デイサービスの延長加算なども追加されより利用しやすくなりました。また事業者にとっても、今まで曖昧だった区分等の解釈も明確に提示され、採算が合いにくい在宅サービス事業者にとっても安定したサービスが提供できることになりそうです。現在介護保険サービスを利用されている方は、4月よりケアプランの見直しとなりますので、担当ケアマネージャーまでお問合せ下さい。次の見直しは2005年に予定されていますが、今後は高齢者のニーズにあった保険制度に成長していくことを期待します。

詳しい内容は、やさしい手甲府のホームページでご案内しております
<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

やさしい手甲府のデイサービスがオープンしました。

HAND TO HEART・INFORMATION 2003/03



通所介護施設 市川倶楽部



通所介護施設 南アルプス倶楽部

去る3月1日、やさしい手甲府では2つの事業所を同時オープンいたしました。やさしい手甲府のデイサービスは地域密着がコンセプトですので、コンビニエンスストアの市街地で交通の便が良い立地や、コンパクトで適当な規模に着目し、両施設とも空き店舗をお借りして改装いたしました。至れり尽くせりの設備ではありませんが倶楽部の名の通り、家庭的な雰囲気、明るいスタッフが毎日ご利用者をお迎えします。ただいま見学会・無料体験を実施中です。ぜひ遊びに来て下さい。また昨年オープンしたグループホームもお申込みがあとわずかになりました。お早めにどうぞ。

デイサービス/市川倶楽部	市川大門町1388-4	TEL055(240)4230
デイサービス/南アルプス倶楽部	南アルプス市百々3011-6	TEL055(280)0230
グループホーム/青葉町日和	甲府市青葉町14-15	TEL055(236)5155

介護保険に関するご相談は TEL055(255)6334

在宅介護のヒューマンケアサービス
株式会社 **やさしい手甲府**

<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

南仏を思わせる雰囲気の中に
彩りあふれる洋菓子勢揃い

フランス菓子の店 巴 里 (パリ)

昨年十一月に上石田から移転オープンした創業二十一年のフランス菓子の店。周囲の環境の中で、南仏風の雰囲気、建物が一層目を引く。

店内は窓から陽の光りが明るく差し込み、あたたかな雰囲気、女性スタッフが笑顔で迎えてくれる。大きなガラスケースの中には季節に合わせた生菓子が鮮やかに常時約三十五種類、半生菓子数種が揃えられている。その



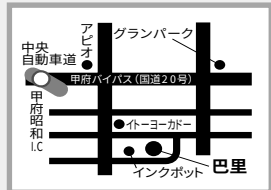
南仏風な外観が美しい

他焼き菓子が二十種類、バスケットに入り彩りよく並んでいる。

この時期お勧めがいちごを使ったケーキ『フレジェ』、口どけのよいクリームといちごをま

菓子づくりにも励んでいる。また、誕生日やブライダル、パーティーに、御客様の注文に応じてつくってもらうこともできるので気軽に声をかけてみよう。見た目で楽しい、味覚も「おいしい」と大評判の店。一度は絶対召し上がれ！

営業時間 10:00～20:00
定休日 毎週月曜日
(祝日の場合は営業、火曜日休み)
所在地 昭和町西条4087
TEL/FAX 055-268-1180



シューマート 石 和 店

シューズのことなら
まるごとおまかせ下さい！

昨年九月にオープンした、シューマート石和店。一階、二階とも広いスペースを有効的に使い、ベビー靴からヤング向けのシューズ、機能性の高いビジネスシューズ、高齢者向けの靴など幅広いニーズに応えたラインナップが豊富に並んでいる。

若者向けのシューズに関しては、雑誌などで取り上げられた商品はもちろん積極的に入荷をし、電話での問い合わせにも気軽に

どのアフターケアも万全のシステムとなっている。

最近では人間工学に基づいた機能充実のコンフォートシューズ



明るく品揃えも豊富な店内

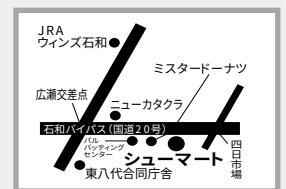
「明るく活気のあるお店、誰でも気軽に立ち寄れるお店にしたいですね」と語る、店長の竹内さん。「靴の事なら何でも、お気軽にご相談して下さい」とのこと。

春夏コレクションも充実。絶対、お店に行ってみる価値アリ！



も年輩の方を初め、足に優しい靴として幅広い人気を集めている。

営業時間 10:00～21:00
定休日 年中無休
所在地 石和町四日市場1608-2
TEL 055-261-2237



某月某日

会社の寿命は何が決めるのか？ 改革の決断とタイミングが成功への道

×月×日

「人間50年…」というのは、有名な教説であるが、では会社の寿命はどのくらいなのであろう？会社(法人)とは、人間が作った人格であり、形あるものは当然いつか壊れる。バブル崩壊は、第二次世界大戦後50年程度にあたり、それから10年既に鬼籍に入った企業も少なくない。

人間の寿命の限界は135年であるというデータを見たことがあるが、企業の寿命には人間と違って生理的限界が無く、数百年の歴史を誇る老舗も存在する。これは、法人は文字どおり「生まれ変わる」からであり、最近の「改革」ブームはこれに当たるともいえる。

それでは「上手に生まれ変わるには…」(まるで新興宗教のようで変なフレーズだが)について考えてみよう。私は、生まれ変わるためには今までの財産を捨て去ることが必要なのではないと思う(ますます新興宗教のようだが新手の勧誘ではない)。ここでいう財産とは、企業のブランド力を含めた過去のイメージであり、必ずしも不動産などの有形の資産をさすものではない。

市場経済においてブランド力を高めることの目的は、市場から信頼を集め、ひいては市場全体に影響を与えうる支配力も手に入れることにある。そうして得られた企業の地位はある程度安定であり、利潤を保障する源となる。しかしながら、これによって企業のイメージが固定化され、だめになってしまった例もたくさん見てきた。カリスマ経営者(一種のブランド)と一心同体になってしまった為に身動きが取れなくなっていった企業、自社のブランドにあまりに自信を持ちすぎたために衛生管理・危機管理がおざりになってしまった企業、等々挙げればきりが無い。

一方、成功している企業の中には、今まで築いてきたイメージ(ブランド)を思い切って捨て去ってしまった例が多い。電気製品メーカーが、ゲーム・パソコン分野に進出した例、思い切って代表を外国人にして、社内システムを全て変えてしまった例が挙げられる。大切なのは、築いてきたイメージそのものではなく、そのイメージをどのように利用するかなのである。

クローンがもたらす功罪とは

×月×日

クローン人間のニュースを見た。本当に可能かどうかは別にして、「人間のクローン(複製)技術が進歩したら、それを許可するべきか？」という議論がある。

ある人は、生命の創造は神のみに許されし業なので、やってはならないと言う。科学者は、完全なクローンが生み出せるかどうか疑問であり、もしも技術が不完全で人間のクローンを作ってしまった場合の不幸は計り知れないと反対する。法律家は、クローンに関しての完全なる法制度の整備が不可欠であるということになる。

経済学者は？という、私は別の観点か

ら許可してはならないと考える。いわゆるダミー会社、バイパス会社という言葉をご存知と思うが、もしもクローン人間が可能になったならば人間で同じことが起こり、それは法制度を厳格にしようとも、避けることができないように思われるからである。簡単に言うなら、完全なクローンが可能なら自分のクローンを作成して、病気などでどうしようもなくなった時には、クローンとパーツを取り替えればよいということが必ず起きるのであろうから反対するのである。

医学(科学)の進歩と単純に考えられない私がおかしいのだろうか…。

[文: 杉村 聡]

「いざ鎌倉」の道は甲斐にも存在した 鎌倉街道の歴史



峠筋の民家の間を通る鎌倉街道（御坂町）



今も残る街道筋の石畳

甲斐の国は、名高い諸山に四方を囲まれ、閉鎖的な地形をしているので他国との往来は厳しかった。

このため、古くからいくつもの道が国外に向けて延び、物資や文化の往来、戦国期には軍用路として、重要な役割を果たしてきた。

これらの古道(九道)を「甲斐九筋」というが、今回はその一つである「鎌倉街道」の歴史をたどってみた。

鎌倉街道とは、1192年、源頼朝が平家を打ち破り鎌倉に幕府を置いて以来、幕府の急時に備え、「いざ鎌倉」の道として、整備が進められてきた軍用路である。つまり鎌倉街道は、各地から鎌倉に向けて拓かれた軍用路の総称であるが、実は鎌倉街道と呼ばれるようになったのは、江戸時代からである。

甲斐国における鎌倉街道は、古くは甲斐路または御坂路と呼ばれていたもので、石和から御坂峠を経て、富士北麓から山中湖村を通り、籠坂峠を越え、須走・小田原に至る道で、山梨県内における最古の官道と称されている。

甲斐源氏が幕府の御家人奉公になると、鎌倉と甲斐とを結ぶ政治的・軍事的要路として、街道は一層重視され、整備された。

江戸期になると、塩や茶、海産物が駿州・豆州・相州から搬入され、逆に郡内産の絹・木製品等が搬出された。沿道の村などでは、富士講登山に向かう人からの駄賃稼ぎが活発になり、農業生産力の低いこの地域農民の重要な商業、経済路となった。

幕末から明治初期にかけても甲斐絹や織物の生産の隆盛や富士講登山で、街道筋は大変な賑わいを見せ、頻繁な人通りのことを古い言葉で「鎌倉街道のようだ」と喩えるようになったことからしても、その賑わいが想像される。

明治に入ると県道として整備され、富士五湖・箱根方面の観光開発が急速に進んだ。その後、国道に昇格され、現在に至っている。

このように鎌倉街道は、今や、その道筋も道路利用の性格も時代と共に変化し、当時の面影も薄れつつあるが、今も所々に残る石仏や石畳からは、祖先の人々の様々な人生のドラマが目に見え、歴史の重みが伝わってくる。

(写真：若林賢明)